

	<p>5. 職員の採用停止とコスト削減、各種基金積立の増額について 事業展開にコスト意識を導入する事は当然ではあるが、コスト削減⇒職員減と云う考え方は、短絡的すぎないか。本年以降、数年間で団塊の世代と云われる方が大量に定年を迎える一方で、職員採用を控える事は事務処理も含め、技能・技術の伝承による行政の断続性に悪影響を及ぼしかねない。やみくもな減員は活力そのものを失う恐れさえ懸念される。一方で教職員に関しては、教育の充実という面は理解するものの金銭的投資は、本来、国・県が負担すべき事柄と思うが。定数減の中での委託の縮小（職員対応）は超勤も含め、負担増には。</p> <p>6. 各種基金積立の増額を云ってるが、市長の考える適切額はどの程度と考えているのか。基金が豊かである事にこした事は無いが、今日的状況（自主財源不足）の中では、資金を有効活用する事も重要である。</p> <p>全般的に希望的、理想論的所信となっているが、現状認識をしっかりと判断し、避けられない事業判断が必要と考えるが。</p>	
19番 高橋督儀議員	<p>1. 広域行政に対する取扱方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併問題 ・消防 ・ゴミ処理 <p>2. 行財政関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の見直しは。 ・課長立候補制度について ・基金積立の考え方 ・税の滞納に対する考え方 <p>3. 商業関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオンモール進出と商店街の共存発展の為の対応策は。 ・中心市街地の空洞化に対する対策は。セールスマン市長としての考え方は。 <p>4. 農業関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の基幹産業として継続していける為の具体策は。 ・後継者不足の解消策は。 <p>5. 福祉・教育関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉行政に関するめまぐるしい制度改正が実施されているが、本市の取り組み方は万全か。組織体制は万全か。 ・少子化社会、小学校（村君・新郷第2小）の統廃合は又公立保育所の統合及び民間委託の推進は。 <p>6. 土地利用及び人口増対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用の全体的見直しの具体策は。 ・遊休公用地の有効活用と売却処分等の考え方は。 ・民間活力の積極的導入による開発の促進は。 ・人口増対策は。 	市長

議案に対する質疑
【7月10日】

発言議員	議案件名	要旨	答弁者
5番 小野幸夫議員	1. 議案第47号 平成18年度羽生市一般会計補正予算（第3号） 第10款教育費のうち、「小学校と中学校の連携事業」について 県の委託事業で、「小学校と中学校の連携事業」を行う様であるが、具体的にはどの様な事を行うのか教えてほしい。また、保育園から小学校に入学する場も、同様の事が考えられると思うが、参考までに教えてほしい。		教育次長
14番 落合信夫議員	1. 議案第47号 平成18年度羽生市一般会計補正予算（第3号） ① 道の駅整備事業は、今年度中に建設予定だが、完成後の管理運営は。 ② 防災行政無線子局受信設備改修工事費350万円の内容は。		① 企画財政部長 ② 総務部長